

株主の皆様へ

「黒字化達成のご報告と今後の展開について」

拝啓 株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

本日お知らせしましたとおり、2015年3月期（第17期）の業績は、売上高は約19億58百万円、営業利益は約23百万円、最終利益は約18百万を計上できる見通しとなりました。ご覧のとおり、売上・利益ともにまだまだ少額ですが、神戸研究所における分子解析センター開設のように今後の事業拡大に向けた先行費用、子会社における決算賞与支給のように当初予定していなかった費用を吸収した上での利益確保であり、当社グループは完全に黒字体質に転換したと考えております。これもひとえに、株主の皆様からの長年におわたるご支援の賜物であり、心から感謝を申し上げます。

私は、2010年6月に代表取締役社長に就任以来、当社の事業の効率化や拡大とともに社内改革を行って参りました。このたび、ようやく上場以来の赤字を脱却することができ、今回を節目に、より一層事業内容の充実と展開スピードを加速させる所存です。

また、今回の黒字化を受け、当面の資金需要及び市場環境も勘案し、発行していた新株予約権についても買取り及び消却を実施することにいたしました。

当社グループは、M&A戦略に従い2013年4月に子会社である（株）新薬リサーチセンターが（株）新薬開発研究所から全事業を譲り受けるとともに、同年7月（株）ジェネティックラボを子会社化しました。この2社は、贅肉を徹底的に削り落とし事業効率化と拡大とに全力を尽くした結果、僅か2年弱で当社グループ収益に大きく貢献する企業となりました。2社は、当社と同様、まだまだ成長途上にあり、従業員の士気も高まっていますので、今後も大いに期待しているところです。

なお、2社の取り込みが、業績拡大に繋がったことは想定通りというところではありますが、それに加えて、今回の経験を通じ、当社グループ内にM&Aのノウハウが蓄積されたことは、今後の当社グループの発展に向けて大きな財産となったと考えております。

さて、当社グループは、基盤技術である遺伝子改変マウス作製に係る事業及びトランスジェニックマウスを用いた高親和性抗体の開発・作製事業に加え、遺伝子や分子病理解析の提供、非臨床試験・臨床試験の受託、更には病理診断と幅広いサービスを研究機関、製

薬企業、食品会社などに提供できる、魅力あるグループとなりました。今の形態のままでも、売上・利益は当面、確実に伸びていくと思います。しかし、我々は、現状に満足することなく、第18期からはこの基礎研究・創薬開発に対するトータル支援プラットフォームを最大限に活用した新しい事業モデルを構築することを考えております。

具体的には、これまで企業体力の制約から挑戦できなかった「創薬事業」の取り込みを考えております。ご存じの通り、国内のアカデミアは多くの有望な創薬シーズを発掘しており、海外の製薬企業も注目をしているところです。我々はこのような有望な創薬シーズをもつバイオベンチャーを発掘し、「人材」「資金」そして「創薬支援プラットフォーム」を提供し、創薬シーズの価値を高め、製薬企業への導出を実現するモデルを考えております。広範囲・最先端の創薬支援機能をもちM&Aのノウハウが蓄積した当社だからこそ実現できる創薬シーズ価値の最大化です。

最後に、九州から北海道まで事業拠点、グループ会社をもつ親会社として、交通の利便性に優り、今後無視することの出来ない大きな市場を持つアジアの玄関口である福岡市に本店を置くことを第17期定時株主総会議案に上程することといたしました。「熊本の技術を基盤に世界に羽ばたく」熊本大学発ベンチャーとして、今後も「創一流」の精神を忘れず邁進していく所存です。

是非とも、株主の皆様におかれましては、より一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

株式会社トランスジェニック

代表取締役社長

福永健司